

シンポジウム

② 防災を念頭に置いた地域における鍼灸師の活動

朝日山治療室 室長

神奈川衛生学園専門学校／東海医療学園専門学校／

湘南慶育病院 非常勤講師 朝 日 山 一 男

新潟中越地震以来、能登半島地震まで災害支援活動（鍼灸マッサージ・サロン活動）を70回以上行ってきた。急性期から亜急性期、慢性期を通じて、避難所・仮設住宅・復興住宅のそれぞれのフェイズにおける災害支援から共通の問題点が存在した。それは①生活不活発病②引籠り③コミュニティ形成の難しさである。これは現代社会の課題でもあるが、被災地においては顕著に表れる。問題解決には、平時よりの「顔に見える関係づくり」が重要であると気づき、地元二宮町にて「人生わくわく船」を組織し、月1回東洋医学に基づいた健康講和、運動、ゲームなどのサロン活動を実施している。

他の活動内容は、年1回二宮町ボッチャ大会を開催、本年で第5回目を迎えた。

2022年、災害研修（パネルディスカッション）を実施。

2023年、二宮町防災訓練時にボランティアマッチング訓練を指導した。二宮町防災課の研修にも講師として参加している。各行事とも150人程度の参加を得ており、全て行政や社協との連携で実施している。

2024年、能登半島地震ではDMAT本部での活動を経て、仮設住宅ニーズ調査から、支援第一弾「真心靴下大作戦」を展開、靴下を送ることを決定した。人生わくわく船メンバーや患者様、タウンニュース、神奈川新聞等で呼び掛け、4647足が集まり、仮設住宅、保育園等22か所に送付させて頂いた。

第二弾は能登災害支援チャリティーコンサート（マンドリン）を実施した。330名の参加者があった。

2025年7月、第三弾能登支援コンサートを金沢市近江町交流プラザで実施。併せて輪島市二俣町仮設住宅へのサロン活動の支援を実施。これらの活動は、地域住民の方々の健康維持増進を基に平時から顔に見える関係づくりを目指すものであり、鍼灸マッサージ師は地域の様々なコーディネート役としての役割が可能であると考えます。